

2025年1月10日

名古屋で開催決定！

光のアーティスト、モネの見た景色に没入する体感型デジタルアート

「モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光」

1月17日より前売券発売開始！



メ〜テレ（名古屋テレビ放送）とテレビ愛知企画は、4月9日(水)～6月22日(日)の75日間、現在、角川武蔵野ミュージアムで開催中の、光のアーティスト、モネの見た景色に没入する体感型デジタルアート「モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光」を金山南ビル美術館棟にて開催します。

フランス・パリに生まれ、印象派を代表する画家のひとりであるクロード・モネ（1840-1926）。移ろいゆく景色や時間を、柔らかい色遣いでキャンバスに描きとめ、生涯を通して数多くの作品を残しました。自然を愛し、太陽の筆捌きを敏感に捉えながら制作を続けたモネは、「鳥が歌うように絵を描きたい」と語っています。

2025年1月10日

本展では、モネが人生で訪れた場所をなぞりながら、モネの見た景色、共に過ごした家族や友人、最後の住処であるジヴェルニーでの生活などを音楽と共に追体験します。映像は、19世紀後半にサロン（官展）を離れ、作品発表の場を求めて仲間と自主開催した1874年のグループ展（印象派展）に出展した作品《印象、日の出》から始まります。この作品を見た批評家が辛辣に揶揄したことから、「印象派」という言葉が生まれたと言われています。印象派が生まれた19世紀のフランスで、モネはどのように生き何を描きたかったのか、画家の網膜にはどんな光が投影されていたのか。光の世界に包まれながらモネの気持ちを追体験してください。

また、映像展示以外にも、モネを学ぶエリアや、モネを楽しむフォトスポットを設置。学びのエリアでは、印象派展の変遷や、モネが描いたテーマ、モネの手がけた「連作」の手法、そして彼が影響を受けたジャポニスムに至るまでを解説します。フォトスポットはジヴェルニーの「睡蓮の池」をイメージ。映像作品と合わせて、モネの描いた世界をお楽しみください。



<角川武蔵野ミュージアムの会場の様子>



<角川武蔵野ミュージアムの会場の様子>

<開催概要>

- 名 称 : 「モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光」
英語タイトル : Monet: I Can See the Lights – An Immersive Journey
- 会 期 : 2025年4月9日(水)～6月22日(日) ※75日間
10:00～18:00 (最終入場は閉場時間の45分前)
- 会 場 : 金山南ビル美術館棟 (旧名古屋ボストン美術館)
〒460-0023 名古屋市中区金山町1-1-1
- 主 催 : 「モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光」名古屋実行委員会
- 企 画 : 角川武蔵野ミュージアム、公益財団法人角川文化振興財団
- 後 援 : 名古屋市、名古屋市教育委員会、愛知県、愛知県教育委員会、
FM AICHI、ZIP-FM
- 協 力 : 一旗

■チケット発売日：1月17日（金）10:00より各プレイガイドで前売券発売

■入場料

	一般（大学生以上）	中高生	小学生
当日券	2,500円	2,000円	1,000円
前売券	2,300円	1,800円	800円

※未就学児以下無料（保護者同伴必須）

※学生料金で入場の際には学生証をご提示ください

※障がい者手帳（身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳）、小児慢性疾患手帳、被爆者健康手帳、特定疾患医療受給者証、特定医療費（指定難病）受給者証、デジタル障害者手帳「ミライID」をご提示の方は、介添えのための同伴者1名様は無料でご入場いただけます。ご本人様はチケットをご購入ください。

▽公式HP：https://www.nagoyatv.com/program_event/monet2024.html